

序

医学の著しい発展を可能にした最も大きな要因の一つは抗生物質の発見と開発であった。抗生物質の背景のもとで開発された手術方法は耳鼻咽喉科領域でも少なくない。また、習慣性アンギーナや急性扁桃炎での β 溶連菌の減少傾向、副鼻腔炎の変貌などは抗生物質の発展・普及に関連するだろう。しかし、滲出性中耳カタルの増加も抗生物質と無縁でない。

それぞれの抗生物質が感染症の治療に有効性を発揮した反面、またそれぞれの副作用を生んだ。アミノ配糖体系のごとく、欠くことのできない抗生物質として発展する可能性をもちながら、不可逆的な聴器毒としての側面をもつものもある。

感染症は耳鼻咽喉科領域の最も重要な分野であるが、他科領域とも重複している。感染症に関する学会や研究誌も1～2に止まらない。情報は多く、われわれの個々の努力で現在の変貌した感染症の診療や研究に必要な総括的な知識を取捨選択することが容易でなくなってきた。感染症は耳鼻咽喉科疾患の原因となり、また疾病の予後を左右するものであり、限られた同好の士の研究対象に止まるものではない。われわれの生涯教育として取り組むべきものであろう。

変貌した感染症の学問的成果をそれぞれの専門の先生方に整理・集約していただくことで、われわれの知識や経験を再検することが必要と考えられた。本特集号はこうした意図のもとに編集された。

ご執筆をお願いした先生方には限られた期間内に貴重な時間を割いておまとめいただき、厚く御礼申しあげる次第である。

(編集委員)